地震･津波避難対策
マニュアル

宿泊施設名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿

作成年月日　平成　　年　　月　　日

～ 宿泊施設でマニュアルを作成する理由 ～

〇地震・津波からの、外国人旅行者を含む観光客の安全確保

お客様・従業員の安全　＝　安全確保は施設の責任・不備があれば訴訟も

観光客は災害弱者　＝　地域の危険度や、地理に不案内・年齢もまちまち

一分一秒が生死の分かれ目　＝　いざという時、的確・迅速な対応が必要

⇩

マニュアルづくりによる防災対策

話し合い　気づき　準備・点検　体制　教育・訓練

取るべき対策や行動の明確化　対策や行動の重複や欠落の防止

※訓練でできないことは本番でもできません！

⇩

いざという場合に適格かつ迅速な対応を実施

⇩

外国人旅行者を含む観光客の安全確保

地震・津波による犠牲者の最小化

安全安心な観光地のアピール・集客効果

マニュアルの構成

○ マニュアルの作成にあたって

１　地震・津波への理解
- 想定される地震の震度や、液状化のリスク等の把握
- 想定される浸水深・到達時間等の把握

２　日頃の備え
- 体制づくりについて
- 必要な機械・器具の準備・点検について
- 施設内での安全確保について
- 避難場所・避難経路の想定について
- 避難時の安全確保について

３　津波が発生したときの備え
- 津波発生時の行動マニュアル

４　教育・訓練の実施
- 外国人旅行者への対応手順について

○ マニュアルの様式

１　想定される震度及び浸水深・到達時間等【様式１】

２　防災体制表【様式２】

３　必要な機械器具のチェックリスト【様式３】

４　施設内での安全確保のチェックリスト【様式４】

５　避難場所・避難経路図【様式５】

６　避難時の安全確保のチェックリスト【様式６】

７　津波発生時の行動マニュアル【様式７の１】【様式７の２】

８　外国人旅行者への対応手順【様式８】

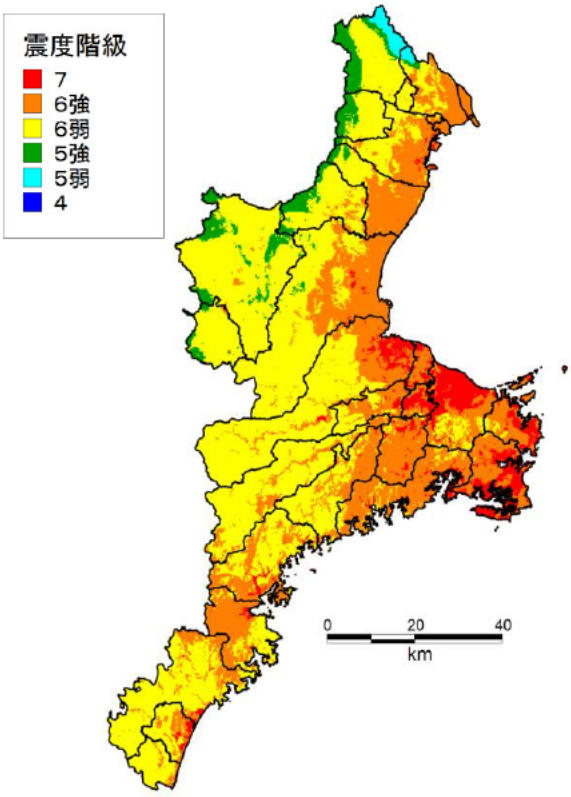
９　教育・訓練実施のチェックリスト【様式９】

マニュアルの作成にあたって

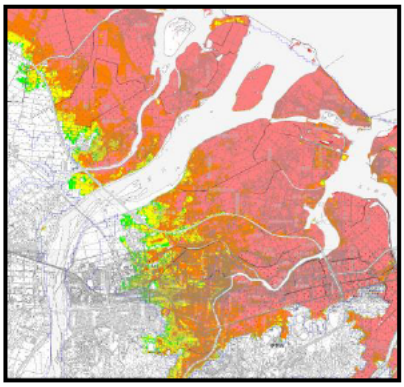
1　地震・津波への理解

○想定される地震の震度や津波の浸水深・浸水開始時間の把握が前提

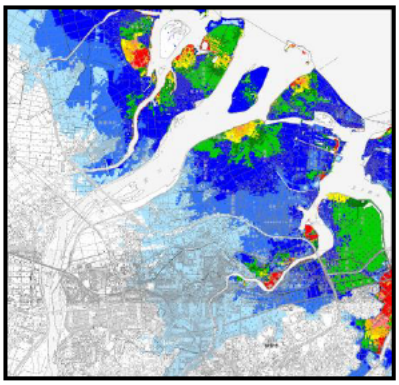
- 南海トラフ地震の発生を想定した、揺れの大きさや、液状化の可能性について、把握しておく必要があります。
- それと同時に、どの程度の津波が、どの程度の時間で押し寄せてくるのか、いつまでに避難が必要かを把握しておかなければなりません。
- これらの想定から考えられる被害を前提として、お客様の避難誘導などの計画を事前に練っておくことが大切です。
- 南海トラフ地震が発生した場合に、県内の市町で想定されている地震の震度や液状化のリスク、津波の浸水深や、避難行動に支障をきたす浸水30cm到達時間は、県のホームページや市町のハザードマップで確認してください。（様式１に確認方法が記載されています）



南海トラフ地震発生時の揺れの大きさ



津波浸水予測図



津波浸水深 30cm 到達時間分布図

（平成 25 年度地震被害想定調査より）

【備考】あらゆる可能性を科学的見地から考慮して、起こりうる最大クラスの南海トラフ地震の想定です。
発生する可能性は低いものですが、命を守るためには、この地震・津波に備えることが重要です。

２　日頃の備え

○なぜ、日頃の備えが必要か

・ 津波対策の基本は、一刻も早く安全な場所に避難することです。
・ 限られた時間で、的確・迅速に避難するためには、日頃の備えと訓練が重要です。

１ 体制づくり

・ いざという場合の、役割分担をあらかじめ決めておきましょう。
・ 基本的な体制は、統括係・通報連絡係・安否確認係・避難誘導係・救護係です。
・ 昼間・夜間・フロア別など、いくつかのパターン別に決めておくことが有効です。

【参考】 様式２ 防災体制表

２ 必要な機械・器具の準備・点検

・ いざという場合に必要な機械・器具を、リストアップし、準備しておきましょう。
・ いざという場合に、すぐに使用できる場所に保管することも重要です。
・ 使用方法や使用可能かどうかを、訓練などで定期的に点検することも必要です。

【参考】 様式３ 必要な機械・器具のチェックリスト

３ 施設の安全確保

・ けがをすると、その後の避難や、避難誘導に、大きなハンディとなります。
・ けがをしないよう、施設内外のリスクをできるだけ無くしておきましょう。
・ また、避難経路となる通路・階段等の安全確保も重要です。

【参考】 様式４ 施設内での安全確保のチェックリスト

４ 避難場所・避難経路の想定

・ 津波発生時の避難場所と、避難場所への避難経路を想定しておきましょう。
・ また、避難誘導の起点となる施設内の集合場所を想定しておきましょう。
・ 施設によっては、避難場所を建物内の高層階にすることも考えられます。
・ 地域によっては、複数の避難場所や避難経路を想定しておくことも必要です。

【参考】 様式５ 避難場所・避難経路図

５ 避難時の安全確保について

・ 避難場所への避難経路に危険な箇所がないか、確認をしておきましょう。
・ 管理者等と事前に話し合い、場合によっては、避難経路の変更も必要です。

【参考】 様式６ 避難時の安全確保のチェックリスト

３ 津波が発生した時の備え

○ 様々なケースを想定した備えが必要

・ 津波対策の基本は、一刻も早く安全な場所に避難することです。
・ より短時間で判断し、的確な行動をとるためには、日頃から様々なケースを想定し、対応を検討して、できるだけ想定外を少なくしておくことが必要です。
・ 多くの課題が同時に発生した場合や、必要な人員がそろわない場合に備えて、各業務の優先順位を決めておくことも必要です。
・ また、津波から逃げ遅れることのないように、津波の到達時間を踏まえて、各業務を打ち切る時間（避難開始時間）を決めておくことが非常に重要です。
・ 短時間で津波が到達しうる地域では、情報収集を後回しにして、直ちに避難誘導を開始するなど、一刻も早く安全な場所に避難することが最優先となります。

【参考】 様式７－１．７－２ 津波発生時の行動マニュアル

４ 教育・訓練の実施

○ いざという場合の確実な対応に向けて

・ いざという場合に確実に対応するためには、「地震・津波発生に伴う危険性」や、「観光客が災害弱者であること」、「お客様の安全確保は施設の責務であること」などを、従業員一人ひとりが理解しておくことが必要です。
・ また、外国人旅行者への対応も含めて、事前に十分な教育・訓練を繰り返すことにより、いざという場合に、的確かつ迅速な対応を行うことが可能となります。
・ さらに、十分な教育・訓練の実施は、マニュアルの問題点や、想定していなかった課題への気づきにもつながります。これらの解決策を検討していくことで、いざという場合に、より確実な対応が可能となります。

【参考】 様式８ 外国人旅行者への対応手順

様式９ 教育・訓練実施のチェックリスト

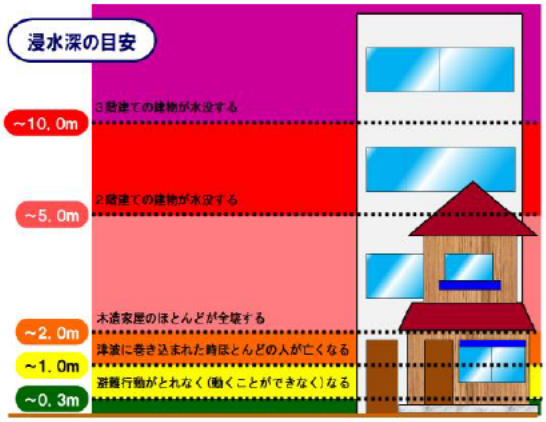
マニュアルの様式

- この様式は、各施設等がマニュアルを作成する際の参考資料として作成したものです。
- 「マニュアルの作成にあたって」で説明してきた内容や、この様式を参考に、各事業所が、それぞれの特性や事情に沿った「地震・津波対策マニュアル」を作成し、いざという場合に備えてください。
- それぞれの様式は、各事業所において、対策の達成度を確認するためのチェックリストとして活用したり、目につく場所に貼って共有したり、従業員の教育資料として活用したりすることもできます。
- 消防法に基づいて消防計画を定めている施設や、すでに地震・津波対策のためのマニュアルを整備している施設などでは、それらの補足や拡充のために役立ちそうな様式を選んで、活用いただくこともできます。
- この様式で、地震・津波発生時のすべての対策がカバーできる訳ではありません。施設等ごとに、実際に地震・津波が発生したときのことを想定し、他に備えておくべきことがないか検討しておきましょう。（例：体の不自由な方など、徒歩での避難が困難な方の支援の方法や、近隣の宿泊施設との連携について。施設等が高台にある場合は、浸水する地域からの避難者の受け入れについても、検討しておくと良いでしょう。）

様式1

想定される震度及び浸水深・到達時間等

想定される震度 （理論上最大クラス）	
液状化危険度	
想定される浸水深 （理論上最大クラス）	
想定される到達時間 （浸水深30cm）	
避　難　場　所 （避難場所までの距離）	（　　m）



10. 0m　3階建ての建物が水没する

5. 0m　2階建ての建物が水没する

2. 0m　木造家屋のほとんどが全滅する

1. 0m　津波に巻き込まれた時ほとんどの人が亡くなる

0. 3m　避難行動がとれなく（動くことができなく）なる

【ポイント】
・想定される震度及び浸水深・到達時間等の把握は、津波への備えの基本となります。
・人は、30cmの高さの津波で足が取られて動けなくなります。
・震度、液状化危険度、津波浸水深・到達時間等の予測図（ハザードマップ）を、市町から配布されたハザードマップや、市町や県のホームページから入手し、マニュアルに添付しましょう。
（想定される震度及び浸水深・到達時間等の調べ方は、裏面を参照してください。）

【想定される震度及び浸水深・到達時間等の調べ方】

①様式1に記入する想定される震度（理論上最大クラス）、液状化危険度、想定される浸水深（理論上最大クラス）、想定される到達時間（浸水深30cm）の数値は、三重県のホームページで公開している資料により確認することができます。
②県のホームページで公開されている資料では自らの施設の数値の特定が難しい場合は、各市町が公開しているハザードマップ等も参照し、自らの施設のリスクを把握してください。
（市町により、予測の基礎となるデータの調査年度が異なる場合があるので、ご留意ください。）
③なお、一部の市町については、南伊勢町のホームページで公開しているシステム（下表リンク数値を確認することができます。

ホームページリンク先

	公開元・情報の種別		リンク先	備考
①	三重県	震度	http://www.pref.mie.lg.jp/D1BOUSAI/hazard/shindoyosoku_h25.htm	
		液状化危険度	http://www.pref.mie.lg.jp/D1BOUSAI/hazard/ekijoukakikendoyosoku_h25.htm	
		津波浸水深	http://www.pref.mie.lg.jp/D1BOUSAI/tsunami/shinsuiyosokuzu_h25.htm	
		津波到達時間	http://www.pref.mie.lg.jp/D1BOUSAI/tsunami/shinsuiyosokuzu_h25.htm	
		県ホームページのハザードマップ（災害予測図）一覧からご覧いただけます。（http://www.pref.mie.lg.jp/D1BOUSAI/hazard/） 三重県　ハザードマップ　検　索		
②	県内市町の避難所情報、防災マップ一覧		http://www.bosaimie.jp/ne000.html 三重県　避難所・防災マップ　検　索	三重県の「防災みえ.jp」ホームページ内にある、市町ホームページのリンク先一覧
③	南伊勢町	震度	http://gis.sakimori.eng.mie-u.ac.jp/map/map/?cid=1&gid=6&mid=199&lon=136.7230559&lat=34.3452780&scale=12000	南伊勢町以外の一部の市町のデータもシステム内で確認することができる
		液状化危険度		
		津波浸水深	南伊勢町津波ハザードマップ　検　索	
		津波到達時間	※GISのページです。検索結果の2番目以降である可能性があります。	

作成日：平成　　年　　月　　日

様式2

防災体制表

● 時間帯　（　　時　　分～　　時　　分）

係と業務内容	エリア／体制					
全体統括係（消防計画を作成している施設は、自衛消防隊長が責任者） 全体統括・・・・人員配置の変更・各係への指示など 情報収集・・・・津波の規模・到達時間に関する情報収集など 外部との連絡・・・・関係者・関係機関への連絡など	責任者					
	担当者					
通報連絡係（消防計画を作成している施設は、通報連絡班） 身の安全の確保・避難の呼びかけ・・・・館内放送、声がけなど	責任者					
	担当者					
安否確認係（消防計画を作成している施設は、消火班） 建物内を巡視し、取り残された人がいないかを確認 施設の安全確保・・・・非常ドアの開放や停電後復旧に伴う通電火災等の二次災害防止	責任者					
	担当者					
避難誘導係（消防計画を作成している施設は、避難誘導班） 避難の呼びかけ・・・・拡声器、声がけなど 避難場所までの誘導・・・・誘導、介添が必要な方への援助など 避難状況の確認・・・・逃げ遅れた方がいないかの確認など	責任者					
	担当者					
救護係 負傷者の応急手当 閉じ込められた方などの機械器具による救助 負傷者等の避難の援助など	責任者					
	担当者					
外国人対応係 コミュニケーションカードを活用し、避難につきそう、または周囲のお客様について避難するよう促す。整備している場合には、多言語表記の「津波避難マップ」を活用する。	責任者					
	担当者					

・原則として、事前に決めておいた役割分担に沿って行動します。
・事前に決めておいた体制を確保できない場合や、事前に決めておいた体制では十分な対応ができない場合には、全体統括係の指示により、役割分担を変更します。（特に津波到達までに時間的余裕のない施設では、あらかじめ必要最低限の役割分担も検討しておきます。）

【ポイント】
・当防災体制表は、昼の時間帯や夜の時間帯など、勤務シフトに応じて作成しておきます。
・事業所の規模が小さい場合などは、一人の職員が複数の役割を担うこととなります。その場合は、役割の優先順位を決めておきます。
・多くの人員が確保できる場合であっても、責任者や担当者が不在の場合も考慮し、不足する係の人手を補完できるような意識付けが必要です。
・施設外にいる職員に役割分担をさせる場合は、参集基準を定めるとともに、作業開始までの時間（参集に要する時間）を考慮した役割分担をしておきます。
・ただし、施設外にいる職員の参集は、職員の自発的な参集を基本としますが、津波浸水の危険のある施設では、安全が確認できるまで、参集しないように伝えておきます。
・外国人対応係は、英語、中国語、韓国語を中心とした言語で対応できる担当者を複数名選出しておくことが望ましい。

様式3

必要な機械器具のチェックリスト

区　分	品　目	保管場所等	数量
情報	緊急地震速報受信機		
	防災無線（個別受信機）		
	携帯ラジオ		
	携帯電話（緊急速報メールが受信できるもの）		
設備	館内放送設備		
	非常灯		
避難	ハンドマイク・メガホン・ホイッスル		
	懐中電灯		
	ヘルメット・防災ずきん		
	履物類		
	非常口のマスターキー		
援助	車いす		
	担架、ストレッチャー		
	松葉づえ		
	JINRIKI等の搬送補助具		
	外国人観光客用コミュニケーションカード		
応急手当	傷薬・消毒薬		
	三角巾		
	ガーゼ・脱脂綿・油紙		
	包帯		
	はさみ		
	絆創膏		
	AED		
救助	バール・金てこ・鉄パイプ		
	スコップ・つるはし		
	ハンマー		
	のこぎり		
	ジャッキ		
	ロープ		
	はしご		
	手袋（線手・軍手・皮手袋）		

・保管場所等、数量を記入しておくこと。
・定期的（　　回／　　）に点検すること。

（点検日）
平成　　年　　月　　日

点検者

【ポイント】
・施設の状況に応じて、必要な品目をリストアップし、必要性の高いものから順に備えていきます。（事業所の実情に応じて、品目の追加・削除を行います。）
・保管場所は、いざという場合にすぐ取り出せる場所にします。
・訓練において、品目や保管場所が適当かどうか、検証します。
・どこに何が保管されているかを、わかりやすく表示しておくことも必要です。
・点検者と点検頻度を決めて、定期的に点検します。（実際に使用できるか、動作確認を含みます。）

様式4

施設内での安全確保のチェックリスト

区　分	内　　容	安全性（○・×）	備考
建物	建物の耐震補強		
	ガラスの飛散防止		
	天井設備（空調・照明器具等）の落下防止		
	屋外設備（看板・屋根瓦等）の落下防止		
	ブロック塀等の倒壊防止		
	非常口ドアの作動確認		
	防火戸の安全確認		
備品	ロッカー・タンス・書棚等の移動・転倒防止		
	テレビ・OA機器（特にコピー機）等の移動・転倒防止		
	就寝場所や勤務スペース周辺の危険物の撤去		
物品	高所にある物品の落下防止、撤去		
	避難経路（廊下、階段、非常口等）付近の物品の撤去		
	自動販売機・展示物等の移動・転倒の防止		
厨房	食器棚・冷蔵庫等の移動・転倒の防止		
	火元付近の可燃物の移動・転倒・落下等の防止、撤去（火気使用設備・器具からの出火防止措置）		
その他	危険物等の流出、漏えいの防止		

・定期的（　　回／　　）に点検すること。
・安全性が×だった項目の備考には、今後の対応等を記入すること。

（点検日）
平成　　年　　月　　日

点検者

【ポイント】
・対応に費用が発生するものもあります。
・費用が発生しないところから順に対応するなど、工夫しながら取り組んでいきます。
・点検者と点検頻度を決めて、定期的に点検します。

様式５

避難場所・避難経路図

【ポイント】

＜避難場所の選定＞

・周囲の津波到達時間や浸水深を十分考慮して避難場所を選定しておきます。

※避難場所は、津波浸水区域外にあることが基本です。

・短時間で津波が到達する可能性のある地域では、複数の避難場所を想定しておくことも必要です。

※高齢者や障がい者、妊婦などの要配慮者の場合、移動に要する時間が健常者の２倍程度かかるといわれています。

※施設外へ出る時間が遅くなった場合や要配慮者の場合も考慮し、施設内での垂直避難の可能性や津波浸水区域内であったとしても近隣の高い建物への避難の可能性も検討しておきましょう。

・建物の耐震性が十分で、かつ、津波の影響を受けない上層階を持つ施設等においては、施設内での垂直避難の可能性も検討し、上層階への避難経路図も作成しておきます。

※ただし、地震発生時には火災が起こる可能性もあるため、施設外の避難場所も選定しておきましょう。

＜避難経路の選定＞

・経路が遮断された場合に備えて、複数の避難経路を想定しておきます。

＜その他＞

・ 様式6を用いて、避難場所・避難経路の適切性を検証します。
・ 避難場所と避難経路を従業員に周知し、全ての従業員がお客様を誘導できるようにします。
・ 非常時の避難経路図は、部屋に備え付けたり、客室のドアなど目にとまる場所に貼り出しておくとともに、可能ならば、チェックイン時に配付するなど、お客様が事前に確認できるよう努めます。
・ 消防計画に定めた避難経路図やその他独自に作成している避難経路図などが既にあれば、それらを添付します。
・本マニュアルの参考資料として添付されている「津波避難マップ」を利用する場合は、下記のリンク先からマップの「ひな型」と「作成の手引き」を入手し、津波避難マップを作成し、それを添付します。

http://www.pref.mie.lg.jp/D1BOUSAI/manual map/manual map.htm

様式6

避難時の安全確保のチェックリスト

区　分	内　　容	安全性（○・×）	備考
避難場所	避難場所までの移動時間（津波到達時間内か）		
	避難場所の安全性（浸水域外で十分な海抜が確保されているか）		
	孤立の危険性		
避難所	避難所の場所を把握しているか（屋根がないなど、避難場所での長時間滞在がむずかしい場合）		
	避難場所から避難所までの誘導方法は決まっているか（従業員が誘導する、住民とともに地区の代表者等が誘導する等）		
事前周知	避難場所・避難経路をわかりやすく表示しているか		
	受付の際などに非常時の対応を説明しているか		
	多言語による説明を行っているか（多言語による非常時の避難経路図を受付の際に手渡すなど）		
避難路	橋梁の有無		
	倒壊し、道路をふさぐ恐れのある建物、構造物		
	くずれて、道路をふさぐ恐れのあるがけ		
	石垣		
	ブロック塀		
	十分に固定されていない自動販売機		
	津波以外の原因による浸水危険箇所		
	車いす等の通行が困難な箇所（階段・未舗装）		
	急な階段、スロープ		
	手すりのない階段、スロープ		
	避難者による混雑が予想される箇所		

・定期的（　　回／　　）に点検すること。　　（点検日）
・安全性が×だった項目の備考には、今後の対応等を記入すること。　　平成　　年　　月　　日

点検者

【ポイント】
・「×」の項目については、管理者と話し合いを行います。
・「×」の項目が多い場合は、他の避難場所や、他の避難経路を検討することも必要
・点検者と点検頻度を決めて、定期的に点検します。

地震・津波発生時の避難行動マニュアル　　様式7の1

想定する津波到達時間　　分

（1）地震発生時（地震による揺れが発生しているとき）　＊1～2分間

・すべての従業員は、周囲にいる施設利用者に対して、「あわてず、まず身の安全を確保する」よう呼びかけ、頭を保護し、丈夫な机の下など安全な場所に避難するよう促します。
・外国人旅行者にもわかるよう、可能な限り、英語など多言語による呼びかけも行います。（様式8参照）

（2）最初の揺れが収まったとき

・大きな地震、あるいは、比較的揺れが小さくても1分以上の長い時間揺れた場合は、津波来襲の危険性ありと判断して、ただちに避難体制を整え、避難の呼びかけや誘導を開始します。

【ポイント】
・館内放送が停電等で使用できない場合も想定し、メガホン、ハンドマイクなどの拡声器の活用などの「呼びかけ体制」を用意しておく。
・館内放送の使い方は、可能な限り、すべての従業員に周知・徹底しておく。
・放送のときは、意識してゆっくりと話すようにする。
・停電等で暗い場所に備えて、懐中電灯等の「明かり」を用意しておく。

・揺れの時間が短い場合や、津波到達まで時間的余裕のある施設では、施設内の利用者に「地震が発生した」こと、「現在地震・津波などに関する情報を収集しており、状況がわかり次第、情報提供を行う」ことを呼びかけ、「今、何が起きているのか」ということを説明します。

○ 全体統括係

時間の目安	**大きな地震、あるいは、比較的揺れが小さくても1分以上の長い時間揺れた場合**	津波到達まで時間の余裕のある施設（30分間以上）	備考
	行動	行動	
直後	避難方針の決定・指示 情報を待たず、ただちに避難場所への避難を、各係へ指示する。	情報収集	
分後		収集した情報の伝達	
		避難方針の決定・指示 ↓ 避難の必要性がない場合は対応終了	情報が得られない場合は、最悪のケースに備えた指示をするとともに、引き続き情報収集を行う
	各係の状況確認	各係の状況確認	必要に応じて役割分担の変更指示
分後	避難場所へ移動開始		
分後	津波到達	津波到達	逃げ遅れた人がいないかどうかを把握

○ 通報連絡係

館内放送や拡声器等により、「身の安全の確保」、「冷静な（落ち着いた）行動」、「状況の説明」、「避難誘導」等を呼びかけます。
※文例は、「外国人旅行者用コミュニケーションカード（2）、（3）」を参照。

○ 安否確認係

火災発生の警戒及び被害状況の把握のため、建物内を巡視する。その際、建物内に取り残された人がいないかどうか確認し、全体統括係に報告します。

○ 避難誘導係

時間の目安	行　動	備　考
地震発生直後	施設内の集合場所への避難誘導	通報連絡係及び安否確認係と連携しながら、館内放送や声かけにより、施設内の集合場所への避難誘導を行う
分後	全体統括係より避難方針を確認 ↓ 避難の必要性がない場合は対応終了	
	（引き続き） 施設内の集合場所への避難誘導	並行して避難用機械器具の準備を行う 取り残された方がいる場合は、安否確認係と連携しながら救護係に連絡する
分後	避難状況の確認	宿泊者名簿により逃げ遅れの有無を確認 必要に応じて、お客様に懐中電灯・履物等を配付
分後	避難場所へ移動開始・誘導	介添が必要な方がいる場合は援助
分後	津波到達	

○ 救護係

時間の目安	行　動	備　考
地震発生直後	救護用の機械器具の準備	
分後	全体統括係より避難方針を確認 ↓ 避難の必要性がない場合は対応終了	
分後	施設内の集合場所で負傷者の応急手当	取り残された方がいる場合は、安否確認係と連携しながら救助する
分後	避難場所へ移動開始	介添が必要な方がいる場合は援助
分後	津波到達	

○ 外国人対応係

・ 日本語のわからない外国人のお客様がいる場合は、その方のわかる外国語を話せる従業員ができるだけ付き添って誘導します。

・ 外国語対応できる従業員がその場にいない場合は、外国人ツアーに同行している添乗員やガイドに協力を要請して誘導を行います。

・ 従業員、添乗員、ガイドのいずれもその場に居合わせない場合は、多言語表記のある「避難マップ」を活用し避難ルートを示すとともに、周囲のお客様につきそって避難するよう促します。

※全体の流れは、別紙に示すとおり。

【ポイント】
・防災体制表に応じて、係別に作成します。
・想定される津波到達時間から逆算して、それぞれの活動の時間を決定します。
・細かすぎず、大まかすぎず、適度でわかりやすいものとします。
・お客様には、老若男女、障がいのある方、体調のすぐれない方、けがをされた方、ペットを同伴されている方、外国人の方など、様々な方がおられます。
・多くの課題が同時に発生した場合や必要な人員がそろわない場合は、全体総括係の指示に従います。全体総括係は、日頃から様々なケースを想定しておきます。
・津波から逃げ遅れることのないように、津波の到達時間を踏まえた各業務の目安の時間を定めておきます。
・**短時間で津波が到達する可能性のある地域では、一刻も早く安全な場所に避難すること**

様式7の2

	全体統括係	通報連絡係	安否確認係 救護係	避難誘導係 外国人対応係
地震発生直後	大きな地震、あるいは、比較的揺れが小さくても1分以上の長い時間揺れた場合 ↓ 情報収集 ↓ 避難方針の決定 津波来襲の危険性あり / 津波危険性なし 浸水予測エリア内 耐震性等が十分で上層階への避難が可能な施設 避難場所への避難が必要な施設 建物の倒壊の恐れや火災の発生等がない 建物の倒壊の恐れや火災の発生等がある 建物の倒壊の恐れや火災の発生等がない ↓ 避難場所（上層階）への避難 避難場所への避難 ※浸水予測 エリア内では津波到達時間を意識した避難行動が必要 避難の必要性がない	館内放送や拡声器等により、 「身の安全の確保」 「冷静な（落ち着いた）行動 「状況の説明」 「避難誘導」	救護用の機械器具を準備する。	通報連絡係及び安否確認係と連携しながら、館内放送や声かけにより、集合場所への避難誘導を行う。
最初の揺れが収まった時	避難の指示（避難方針の伝達） → 各係の状況を確認する。 （安否情報の確認は重要） ※必要に応じて役割分担の変更を指示	避難方針の確認 館内放送や拡声器等により、 「身の安全の確保」 「冷静な（落ち着いた）行動 「状況の説明」 「避難誘導」	火災発生の警戒及び被害状況の把握のため、建物内を巡視する。その際、建物内に取り残された人がいないかどうか確認し、全体統括係に報告する。 （救護係） 施設内の集合場所で負傷者の応急手当を （救護係） 取り残された方がいる場合は、安否確認係と	通報連絡係及び安否確認係と連携しながら、館内放送や声かけにより、施設内の集合場所への避難誘導を行 並行して避難用機械器具の準備を行う。取り残された人がいる場合は、安否確認係と連携しながら救護係 （外国人担当係） できるだけ付き添って施設内の集合場所へ
	（必要な場合）避難場所へ移動開始			
	逃げ遅れた人がいないかどうかを把握する。		介添が必要な方がいる場合は、援助する。 宿泊者名簿により逃げ遅れの有無を確認する。	避難場所へ誘導する。 （外国人担当係） できるだけ付き添って避難場所へ誘導する。

様式8

外国人旅行者への対応手順

1　チェックイン時の情報提供

・津波避難マップやSafety Tips説明資料などの災害時に役立つ情報が記された文書をお客様に渡します。

○ チェックイン時のコミュニケーション　　外国人旅行者用コミュニケーションカード（1）

2　地震による揺れが発生している時

（1）　身の安全の確保を呼びかける

・周囲にいる外国人旅行者に対し、「あわてず、まず身の安全を確保する」よう呼びかけ、頭を保護し、丈夫な机の下など安全な場所に避難するよう促します。

（2）　冷静な（落ち着いた）行動を呼びかける

・地震発生直後にパニックとならないよう、落ち着いて行動するように呼びかけます。

○ 館内放送や拡声器等による呼びかけ　　外国人旅行者用コミュニケーションカード（2）

3　最初の揺れが収まった時

（1）　状況の説明及び避難誘導等

・「大きな地震が発生したこと」、「現在、地震・津波などに関する情報を収集しており、状況がわかり次第、情報提供を行う」ことを呼びかけます。

・避難方針が決まったら速やかに方針に沿って避難誘導等を行います。

○ 館内放送や拡声器等による呼びかけ　　外国人旅行者用コミュニケーションカード（3）

4　ひと段落した時

（1）　安否確認

・避難場所への移動が完了したら、外国人旅行者を含めたお客様全員の安否確認をします。

・避難の必要がなかった場合も、施設内を巡回し、安否確認を行います。

○ 館内放送や拡声器等による呼びかけ　　外国人旅行者用コミュニケーションカード（4）

5　その他の対応

上記以外に傷病者への対応等、外国人コミュニケーションカード（5）を活用するなどしながら対応します。

○ 館内放送や拡声器等による呼びかけ　　外国人旅行者用コミュニケーションカード（5）

様式９

教育・訓練実施のチェックリスト

区　分	内　　容	確認（○・×）	備考
基礎知識	南海トラフ地震の基礎知識		
	防災対策の基礎知識		
	施設の責務		
	外国人旅行者に関する基礎知識		
基本事項	事業所の津波の浸水深・到達時間		
	避難場所・避難経路		
	各自の役割分担		
	必要物資の保管場所		
技術	救命救急（人工呼吸・心臓マッサージ）		
	応急手当（止血等）		
	機械・器具の操作		
訓練実施	地震・津波発生時を想定した避難訓練など （行動マニュアルの確認・更新）		
	地域の防災訓練への参加		

・ 定期的（　　回／　　）に確認すること。　　（点検日）
・ ×だった項目の備考には、今後の対応等を記入すること。　平成　　年　　月　　日

点検者

＜教育・訓練実施日＞

前回	年	月	日
今回	年	月	日
次回予定	年	月	日

【ポイント】
・ 基礎知識等の職員への教育、必要な技術の習得、実地の訓練等を定期的に実施します。
・ 教育・訓練の際に判明した課題について、しっかりと対応していくことにより、いざという場合により的確な対応が可能となります。（マニュアルの見直しなど）
・ 点検者と点検頻度を決めて、定期的に点検します。

外国人旅行者用コミュニケーションカード（1）

1　チェックイン時の情報提供

日本語	English(英語)
地震を感じたら、周りの日本人に状況を確認してください。	When you feel an earthquake , Confirm with Japanese people around you about the situation.
緊急事態発生時は、非常放送、あるいは係員の指示に従い冷静に行動してください。	In the event of an emergency , Behave calmly and follow , the instructions of the emergency broadcast or stuff members.
避難の際には、エレベーターは、絶対に使用しないでください。	英：Do not use the elevator to evacuate. 韓：피난 시에 엘리베이터는 절대 사용하지 마십시오 中（繁）：避難時絕對不能使用電梯。 中（簡）：避难时绝对不能使用电梯。

コミュニケーションカード別冊リスト

	内　容
2　地震による揺れが発生している時	
（1）身の安全の確保を呼びかける	
（2）－1	まわりの人に声をかけながら、あわてず、まず身の安全を！！
（2）－2	テレビ・家具・調度品からなるべく離れてください。
（2）－3	近くの固定されているものにつかまってください。
（2）－4	家具の転倒、落下物に注意し、頭を保護して避難してください。
（2）－5	頭を保護し、丈夫な机の下など安全な場所に避難してください。
（2）落ち着いた行動を呼びかける	
（2）－6	あわてて外に飛び出さないでください。
（2）－7	エレベーターが止まったらすぐに降りてください。
（2）－8	避難の際には、エレベーターは、絶対に使用しないでください。
3　最初の揺れが収まった時	
○状況の説明	
（3）－1	大きな地震が発生しました。
（3）－2	施設・建物は今後も揺れますが倒壊や崩壊はしません。
（3）－3	今の地震の規模は、マグニチュード（　　）でした。
（3）－4	今の地震は、0～7で表す日本の震度階級で言うと（　　）の強さでした。
○避難誘導等	
（3）－5	ここは安全なので、ここにいてください。
（3）－6	津波がくるので高いところへ逃げてください
（3）－7	非常放送、あるいは係員の指示に従い冷静に行動してください。
（3）－8	この建物から避難するので貴重品を持ってフロントに集合してください。
（3）－9	エレベーターやエスカレーターは使用しないでください
（3）－10	服装や持ち物にこだわらずに早く逃げてください
（3）－11	ここは危険です。私に（皆に）付いてきてください
（3）－12	緊急避難場所に向かうので、私に（皆に）付いてきてください
（3）－13	最寄りの避難場所までは、歩いて○○分くらいです。
（3）－14	おちついてマネージャーまたはフロントにすぐ連絡してください。
（3）－15	大声で叫ぶか、音をたてて近くの人に知らせてください。
（3）－16	電話でマネージャーかフロントへ救助を求めてください。万一電話が通じないときは、窓口から懐中電灯やシーツなどであなたがいることを合図し、救助を待ってください。
（3）－17	ドアや窓を開けて避難路を確保してください。
（3）－18	施設内を動き回ったり施設外に出たりしないでください。
（3）－19	1階（フロント）部分は浸水の可能性があるので上階に避難してください。
（3）－20	煙の中を逃げるときは、姿勢を低くし、ぬらしたタオルなどを口にあて、煙がくる反対方向の避難階段（非常口）を選んで逃げてください。
（3）－21	煙や炎の侵入を防ぐために濡れタオルシーツなどでドアのすき間をふせぎ救助を待ってください。
（3）－22	お部屋からでられるときは、必ずドアをお閉めください。（火や煙が、ひろがるのを防ぐことができます。）
（3）－23	門や塀、自動販売機やビルのそばに近づかないでください。
（3）－24	海岸でぐらっときたら高台へ避難してください。
4　ひと段落した時	
（1）安否確認	
（4）－1	従業員が施設内を巡回しますのでドアを開けたままお待ちください。
（4）－2	ケガや火傷をした場合は従業員に申し出てください。
（4）－3	ケガはありませんか？
5　その他の対応	
○全般	
（5）－1	この施設は帰国や移動まで皆様の安全を守ります。
（5）－2	従業員の指示には必ず従ってください。
（5）－3	必要な情報・わからないこと・不安なことは従業員に訊ねてください。
（5）－4	周りの日本人に状況を確認してください。
（5）－5	最新のニュース速報に注意し、自治体からの避難勧告・避難指示に従ってください。
（5）－6	飲料水と食料は確保しています。
（5）－7	電気が止まっているので照明やエアコンは使えません。
（5）－8	テレビやインターネットは使えません。
（5）－9	携帯電話やスマートフォンは使えません。
（5）－10	ラジオで外国語の放送をしています。

(5)－11	断水しているのでトイレの水は流れません。
(5)－12	断水しているので風呂・シャワーは使えません。
(5)－13	水は使えますがお湯は出ません。
(5)－14	電気は復旧しましたが水道の復旧には時間が掛かります。
(5)－15	水道は復旧しましたが電気の復旧には時間が掛かります。
(5)－16	鉄道やバスが運行を停止しているので外出は自粛してください。
(5)－17	鉄道やバスは運行していません。
(5)－18	鉄道やバスが運行していないので空港へ行くことは出来ません。
(5)－19	母国や他国への航空機は現在就航していません。
○コンタクト先	
(5)－20	大使館の連絡先はこちらです。
(5)－21	旅行会社、航空会社の問い合わせ先はこちらです。
(5)－22	国際交流協会の問い合わせ先はこちらです。
○訪日外国人旅行者からの問い合わせ文例	
(5)－23	ここは、どこですか。
(5)－24	これは地震ですか？
(5)－25	避難所はどこですか？
(5)－26	ここは安全ですか？
(5)－27	安全な場所はどこですか？
(5)－28	への地図を書いてください。
(5)－29	一緒に来てください。
(5)－30	この紙に書いてください。
(5)－31	トイレはどこですか？
(5)－32	(無料)電話はどこでかけられますか？
(5)－33	国際電話はどこでかけられますか？
(5)－34	充電はどこでできますか？
(5)－35	Wi-Fi が使える場所はありますか？
(5)－36	(食べ物・水)はどこで買えますか？
(5)－37	(食べ物・水・毛布)はどこで手に入りますか？
(5)－38	今日、宿泊できる場所を探しています。
(5)－39	けがをしています。
(5)－40	けが人がいます。
(5)－41	体の調子が悪いです。
(5)－42	病院はどこですか？
(5)－43	(英語・中国語・韓国語)の相談窓口の電話番号か場所を教えてください。
(5)－44	(英語・中国語・韓国語)のテレビかラジオは放送していますか？
(5)－45	(英語・中国語・韓国語)を話せる人はいませんか？
(5)－46	への行き方を教えてください。
(5)－47	空港は、使えますか。
(5)－48	どうしたら　　空港に行けますか。
(5)－49	(電車・バス・空港)はいつ復旧しますか。
○火気取り扱いの注意喚起	
(5)－50	喫煙や火気の使用は控えてください。
(5)－51	火災を発見したら非常ベルを押してください。
(5)－52	火災を発見したら消火器で消してください。
(5)－53	ベッドではタバコを吸わないでください。
(5)－54	吸いがらはくずかごに捨てないでください。
(5)－55	タバコの不始末がホテル(旅館)火災の大きな原因となっています。歩きながらの喫煙はおやめください。
○事前に避難について知らせる	
(5)－56	避難経路図(貼ってある場所を明示)を確認しあなたのお部屋から方向の異なる非常口を2か所以上、実際に歩いてご確認ください。
(5)－57	懐中電灯を確認してください。
【参考】 ○風水害における初動対応	
(5)－58	高潮や浸水、土砂災害の発生するような場所には絶対に近づかないようにしましょ
(5)－59	洪水警報が出たので逃げてください。
【参考】 ○火山噴火における初動対応	
(5)－60	危険な地域に立ち入らないでください。
(5)－61	気象庁が発表する噴火予報および噴火警報に注意しましょう。
(5)－62	噴火警報は、予想される噴火による災害について、警戒を呼びかけます。

外国人旅行者用コミュニケーションカード（2）

2　地震による揺れが発生している時

（1）　身の安全の確保を呼びかける

言語	
	床にしゃがんで身を低くし、持っているものや手を頭の上に置いて、上からの落下物から身を守ってください。
英語	Please stay down on the floor. Protect yourself from falling objects with your hands or anything you have on your head.
（読み）	ﾌﾟﾘｰｽﾞ ｽﾃｲ ﾀﾞｳﾝ ｵﾝ ｻﾞ ﾌﾛｱ. ﾌﾟﾛﾃｸﾄ ﾕｱｾﾙﾌ ﾌﾛﾑ ﾌｫｰﾘﾝｸﾞ ｵﾌﾞｼﾞｪｸﾂ ｳｨｽﾞ ﾕｱ ﾊﾝｽﾞ ｵｱ ｴﾆｼﾝｸﾞ ﾕｰ ﾊｳﾞ ｵﾝ ﾕｱ ﾍｯﾄﾞ.
	客室にいらっしゃるお客様は、枕や毛布などで身を守るとともに、避難できるように部屋のドアを開けてください。
英語	If you are in the guest room, use a pillow or blanket to protect yourself, and open the door for evacuation.
（読み）	ｲﾌ ﾕｰ ｱｰ ｲﾝ ｻﾞ ｹﾞｽﾄﾙｰﾑ、ﾕｰｽﾞ ｱ ﾋﾟﾛｳ ｵｱ ﾌﾞﾗﾝｹｯﾄ ﾄｩ ﾌﾟﾛﾃｸﾄ ﾕｱｾﾙﾌ, ｱﾝﾄﾞ ｵｰﾌﾟﾝ ｻﾞ ﾄﾞｱ ﾌｫｰ ｴｳﾞｧｷｭｴｲｼｮﾝ.
	テレビ・家具・調度品からなるべく離れてください。
英語	Stay away from TVs and furniture.
（読み）	ｽﾃｲ ｱｳｪｲ ﾌﾛﾑ ﾃｨｰｳﾞｨｰｽﾞ ｱﾝﾄﾞ ﾌｧｰﾆﾁｭｱ.
	まわりの人に声をかけながら、あわてず、まず身の安全を！！
英語	Call the attention of those around you, Remain calm,and secure your personal safety!
（読み）	ｺｰﾙ ｼﾞ ｱﾃﾝｼｮﾝ ｵﾌﾞ ｿﾞｰｽﾞ ｱﾗｳﾝﾄﾞ ﾕｰ, ﾘﾒｲﾝ ｶｰﾑ, ｱﾝﾄﾞ ｾｷｭｱ ﾕｱ ﾊﾟｰｿﾅﾙ ｾｲﾌﾃｨ！

（2）　冷静な（落ち着いた）行動を呼びかける

言語	
	あわてないで落ち着いてください。
英語	Keep calm, do not panic.
（読み）	ｷｰﾌﾟ ｶｰﾑ、ﾄﾞｩ ﾉｯﾄ ﾊﾟﾆｯｸ.
	エレベーターが止まったらすぐに降りてください。
英語	Get off at the floor that the elevator stops.
（読み）	ｹﾞｯﾄ ｵﾌ ｱｯﾄ ｻﾞ ﾌﾛｱ ｻﾞｯﾄ ｼﾞ ｴﾚｳﾞｪｰﾀｰ ｽﾄｯﾌﾟｽ.
	避難の際には、エレベーターは、絶対に使用しないでください。
英語	Do not use the elevator to evacuate.
（読み）	ﾄﾞｩｰ ﾉｯﾄ ﾕｰｽﾞ ｼﾞ ｴﾚｳﾞｪｰﾀｰ ﾄｩｰ ｴｳﾞｧｷｭｴｲﾄ.

外国人旅行者用コミュニケーションカード（3）

3　最初の揺れが収まった時

○　状況の説明

言語

	大きな地震が発生しました。
英語	A　major earthquake has just occurred.
（読み）	ｱ　ﾒｲｼﾞｬｰ　ｱｰｽｸｴｲｸ　ﾊｽﾞ　ｼﾞｬｽﾄ　ｵｶｰﾄﾞ.
	現在、地震・津波などに関する情報を収集しており、状況がわかり次第、みなさまにお知らせします。
英語	We are　gathering information of the earthquake and Tsunami. we will provide information once we grasp the situation
（読み）	ｳｨｰ　ｱｰ　ｷﾞｬｻﾞﾘﾝｸﾞ　ｲﾝﾌｫﾒｰｼｮﾝ　ｵﾌﾞ　ｼﾞ　ｱｰｽｸｴｲｸ　ｱﾝﾄﾞ　ﾂﾅﾐ.　ｳｨｰ　ﾌﾟﾛﾊﾞｲﾄﾞ　ｲﾝﾌｫﾒｰｼｮﾝ　ﾜﾝｽ　ｳｨｰ　ｸﾞﾗｽﾌﾟ　ｻﾞ　ｼﾁｭｴｲｼｮﾝ.
	今の地震は、0～7で表す日本の震度階級で言うと、（6強）の強さでした。
英語	The earthquake had an intensity of（6＋） on the Japanese scale of 0 to 7.
（読み）	ｼﾞ　ｱｰｽｸｴｲｸ　ﾊﾄﾞ　ｱﾝ　ｲﾝﾃﾝｼﾃｨ　ｵﾌﾞ　ｼｯｸｽﾌﾟﾗｽ　ｵﾝ　ｻﾞ　ｼﾞｬﾊﾟﾆｰｽﾞ　ｽｹｲﾙ　ｵﾌﾞ　ｾﾞﾛﾄｩｾｳﾞﾝ.
	今の地震の規模は、マグニチュード7．5でした。
英語	It was an earthquake of magniitude 7.5.
（読み）	ｲｯﾄ　ﾜｽﾞ　ｱﾝ　ｱｰｽｸｴｲｸ　ｵﾌﾞ　ﾏｸﾞﾆﾁｭｰﾄﾞ　ｾﾌﾞﾝﾎﾟｲﾝﾄﾌｧｲｳﾞ
	この建物は、耐震構造になっているので安全です。
英語	This building　is earthquake resistant and safe.
（読み）	ｼﾞｽ　ﾋﾞﾙﾃﾞｨﾝｸﾞ　ｲｽﾞ　ｱｰｽｸｴｲｸ　ﾚｼﾞｽﾀﾝﾄ　ｱﾝﾄﾞ　ｾｲﾌ.
	建物は今後も揺れますが、倒壊や崩壊はしません。
英語	This building　may shake again. However, it is safe and will not collapse.
（読み）	ｼﾞｽ　ﾋﾞﾙﾃﾞｨﾝｸﾞ　ﾒｲ　ｼｪｲｸ　ｱｹﾞｲﾝ.　ﾊｳｴｳﾞｧｰ,　ｲｯﾄ　ｲｽﾞ　ｾｲﾌ　ｱﾝﾄﾞ　ｳｨﾙ　ﾉｯﾄ　ｺﾗﾌﾟｽ.

○ 避難誘導等

言語	
（津波避難のできる上層階がない宿泊施設）	
	ただいま大きな地震があり、津波警報が発令されました。当ホテルは津波による浸水のおそれがありますので、すべてのお客様は1階ロビーから、ホテルの外の高台に避難していただきます。エレベーターは使わず、館内の階段および非常階段を利用してロビーまでおいでください。おけがをされた方や、お一人での避難が難しいお客様いらっしゃいましたら、スタッフが各階を回りますので、声をおかけください。
英語	A tsunami alert has been issued following the earthquake. All the guests are requested to be evacuated outside of this hotel to a higher ground. Please use the stares. Do not use the elevator. If you are injured or need assistance for evacuation, please report it to our hotel staff. They are checking all the floors and guest rooms.
（読み）	ｱ ﾂﾅﾐ ｱﾗｰﾄ ﾊｽﾞ ﾋﾞｰﾝ ｲｼｭｳﾄﾞ ﾌｫﾛｰｲﾝｸﾞ ｼﾞ ｱｰｽｸｴｲｸ. ｵｰﾙ ｻﾞ ｹﾞｽﾂ ｱｰ ﾘｸｴｽﾃｨｯﾄﾞ ﾄｩ ﾋﾞｰ ｴｳﾞｧｷｭｴｲﾃｨｯﾄﾞ ｱｳﾄｻｲﾄﾞ ｵﾌﾞ ｼﾞｽ ﾎﾃｨﾙ ﾄｩ ｱ ﾊｲﾔｰ ｸﾞﾗｳﾝﾄﾞ. ﾌﾟﾘｰｽﾞ ﾕｰｽﾞ ｻﾞ ｽﾃｱｰｽﾞ. ﾄﾞｩ ﾉｯﾄ ﾕｰｽﾞ ｼﾞ ｴﾚｳﾞｪｰﾀｰ. ｲﾌ ﾕｰ ｱｰ ｲﾝｼﾞｭｱﾄﾞ ｵｱ ﾆｰﾄﾞ ｱｼｽﾀﾝｽ ﾌｫｰ ｴｳﾞｧｷｭｴｲｼｮﾝ, ﾌﾟﾘｰｽﾞ ﾘﾎﾟｰﾄ ｲｯﾄ ﾄｩ ｱﾜ ﾎﾃｨﾙ ｽﾀｯﾌ. ｾﾞｲ ｱｰ ﾁｪｯｷﾝｸﾞ ｵｰﾙ ｻﾞ ﾌﾛｱｽﾞ ｱﾝﾄﾞ ｹﾞｽﾄ ﾙｰﾑｽﾞ.
（津波避難のできる上層階がある宿泊施設）	
	ただいま大きな地震があり、津波警報が発令されました。当ホテルは津波による浸水のおそれがありますので、すべてのお客様はお急ぎ4階以上の階に避難してください。エレベーターは使わず、館内の階段および非常階段を利用して4階以上の階に上がってください。おけがをされた方や、お一人での避難が難しいお客様いらっしゃいましたら、スタッフが各階を回りますので、声をおかけください。
英語	A tsunami alert has been issued following the earthquake. All the guests are requested to be evacuated to the fourth floor or higher of this hotel. Please use the stares. Do not use the elevator. If you are injured or need assistance for evacuation, please report it to
（読み）	ｱ ﾂﾅﾐ ｱﾗｰﾄ ﾊｽﾞ ﾋﾞｰﾝ ｲｼｭｳﾄﾞ ﾌｫﾛｰｲﾝｸﾞ ｼﾞ ｱｰｽｸｴｲｸ. ｵｰﾙ ｻﾞ ｹﾞｽﾂ ｱｰ ﾘｸｴｽﾃｨｯﾄﾞ ﾄｩ ﾋﾞｰ ｴｳﾞｧｷｭｴｲﾃｨｯﾄﾞ ﾄｩ ｻﾞ ﾌｫｰｽ ﾌﾛｱ ｵｱ ﾊｲﾔｰ ｵﾌﾞ ｼﾞｽ ﾎﾃｨﾙ. ﾌﾟﾘｰｽﾞ ﾕｰｽﾞ ｻﾞ ｽﾃｱｰｽﾞ. ﾄﾞｩ ﾉｯﾄ ﾕｰｽﾞ ｼﾞ ｴﾚｳﾞｪｰﾀｰ. ｲﾌ ﾕｰ ｱｰ ｲﾝｼﾞｭｱﾄﾞ ｵｱ ﾆｰﾄﾞ ｱｼｽﾀﾝｽ ﾌｫｰ ｴｳﾞｧｷｭｴｲｼｮﾝ, ﾌﾟﾘｰｽﾞ ﾘﾎﾟｰﾄ ｲｯﾄ ﾄｩ ｱﾜ ﾎﾃｨﾙ ｽﾀｯﾌ. ｾﾞｲ ｱｰ ﾁｪｯｷﾝｸﾞ ｵｰﾙ ｻﾞ ﾌﾛｱｽﾞ ｱﾝﾄﾞ ｹﾞｽﾄ ﾙｰﾑｽﾞ.
（津波の被害を受ける可能性のない宿泊施設）	
	地震が発生しました。お客様の安全のため、非常階段を使って1 階ロビーに避難してください。余震や停電の可能性がありますので、エレベーターはお使いにならないようお願いします。おけがをされた方や、階段での避難が難しいお客様いらっしゃいましたら、スタッフが各階を回りますので、声をおかけください。
英語	There was a major earthquake. For your safely, the guest are requested to come down to the lobby on the first floor. Please use the stares. Do not use the elevator. If you are injured or need assistance for evacuation, please report it to our hotel staff. They are checking all the floors and guest rooms.
（読み）	ｾﾞｱ ﾜｽﾞｱ ﾒｲｼﾞｬｰ ｱｰｽｸｴｲｸ. ﾌｫｰ ﾕｱ ｾｲﾌﾘｨ, ｻﾞ ｹﾞｽﾂ ｱｰ ﾘｸｴｽﾃｨﾄﾞ ﾄｩ ｶﾑ ﾀﾞｳﾝ ﾄｩ ｻﾞ ﾛﾋﾞｰ ｵﾝ ｻﾞ ﾌｧｰｽﾄ ﾌﾛｱ. ﾌﾟﾘｰｽﾞ ﾕｰｽﾞ ｽﾃｱｰｽﾞ. ﾄﾞｩ ﾉｯﾄ ﾕｰｽﾞ ｼﾞ ｴﾚｳﾞｪｰﾀｰ. ｲﾌ ﾕｰ ｱｰ ｲﾝｼﾞｭｱﾄﾞ ｵｱ ﾆｰﾄﾞ ｱｼｽﾀﾝｽ ﾌｫｰ ｴｳﾞｧｷｭｴｲｼｮﾝ, ﾌﾟﾘｰｽﾞ ﾘﾎﾟｰﾄ ｲｯﾄ ﾄｩ ｱﾜ ﾎﾃｨﾙ ｽﾀｯﾌ. ｾﾞｲ ｱｰ ﾁｪｯｷﾝｸﾞ ｵｰﾙ ｻﾞ ﾌﾛｱｽﾞ ｱﾝﾄﾞ ｹﾞｽﾄ ﾙｰﾑｽﾞ.

駐日外国公館等リスト

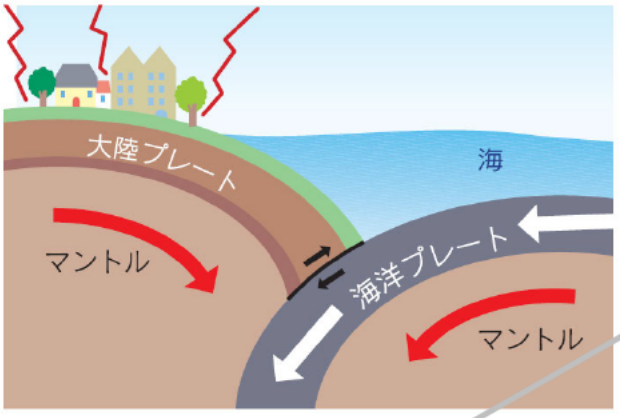
平成27年10月22日現在

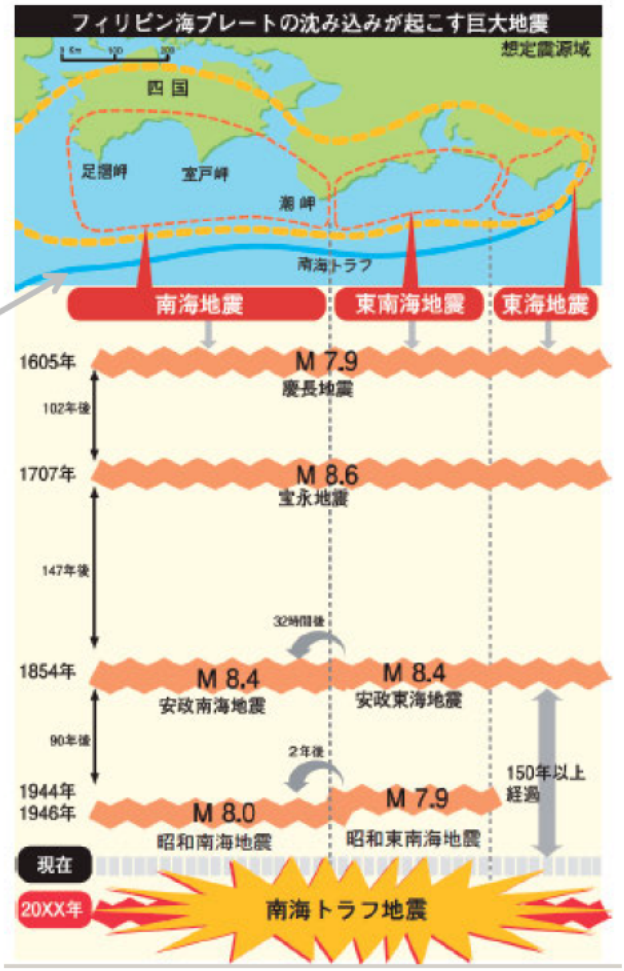
エリア	国名・地域	名称	住所地	電話番号
アジア	韓国	＜在日大韓民国大使館＞	港区南麻布1-2-6	03-3452-7612
	中国	＜在日中華人民共和国大使館＞	港区元麻布3-4-33	03-3403-3388
	台湾	＜駐日台北経済文化代表事務所＞	港区白金台5-20-2 ※民間	03-3280-7811
	シンガポール	＜在日シンガポール大使館＞	港区六本木5-12-3	03-3586-9111
	タイ	＜在日タイ大使館＞	品川区上大崎3-14-6	03-5789-2433
	マレーシア	＜在日マレーシア大使館＞	渋谷区南平台20-16	03-3476-3840
	インドネシア	＜在日インドネシア大使館＞	品川区東五反田5-2-9	03-3441-4201
	フィリピン	＜在日フィリピン大使館＞	港区六本木5-15-5	03-5562-1600
	インド	＜在日インド大使館＞	港区九段南2-2-11	03-3262-2391
北米	米国	＜在日米国大使館＞	港区赤坂1-10-5	03-3224-5000
	カナダ	＜在日カナダ大使館＞	港区赤坂7-3-38	03-5412-6200
中南米	メキシコ	＜在日メキシコ大使館＞	千代田区永田町2-15-1	03-3581-1131
	ブラジル	＜在日ブラジル大使館＞	港区北青山2-11-12	03-3403-5211
欧州	英国	＜在日英国大使館＞	千代田区一番町1	03-5211-1100
	フランス	＜在日フランス大使館＞	港区南麻布4-11-44	03-5798-6000
	ドイツ	＜在日ドイツ大使館＞	港区南麻布4-5-10	03-5791-7700
	イタリア	＜在日イタリア大使館＞	港区三田2-5-4	03-3453-5291
	スペイン	＜在日スペイン大使館＞	港区六本木1-3-29	03-3583-8531
	ロシア	＜在日ロシア大使館＞	港区麻布台2-1-1	03-3583-4224
	オランダ	＜在日オランダ大使館＞	港区芝公園3-6-3	03-5776-5400
	スウェーデン	＜在日スウェーデン大使館＞	港区六本木1-10-3-100	03-5562-5050
	スイス	＜在日スイス大使館＞	港区南麻布5-9-12	03-5449-8400
	フィンランド	＜在日フィンランド大使館＞	港区南麻布3-5-39	03-5447-6000
大洋州	豪州	＜在日オーストラリア大使館＞	港区三田2-1-14	03-5232-4111
	ニュージーランド	＜在日ニュージーランド大使館＞	渋谷区神山町20-40	03-3467-2271
国際交流財団		＜三重県国際交流財団＞	津市羽所町700　アスト津	059-223-5006

Summary of Tables explaining the JMA Seismic Intensity Scale
震度と揺れ等の状況（概要）

	JAPANESE SEISMIC INTENCY SCALE （ＪＭＡ）	震　　度 （気象庁）
0	Imperceptible to people.	人は揺れを感じない。
1	Felt slightly by some people keeping quiet in buildings.	屋内で静かにしている人の中には揺れをわずかに感じる人がいる
2	Felt by many people keep quiet in buildings.	屋内で静かにしている人の大半が揺れを感じる。
3	Felt by most people in buildings.	屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。
4	・Most people are startled. ・Hanging objects such as lamps swing significantly. ・Unstable ornaments may fall.	・ほとんどの人が驚く ・電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。 ・座りの悪い置物が、揺れることがある。
5Lower（5弱）	・Many people are frightened and feel the need to hold onto something stable. ・Dishes in cupboards and items on bookshelves may fall. ・Unsecured furniture may move, and unstable furniture may topple over.	・大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。 ・棚にある食器類や本が落ちることがある。 ・固定していない家具が移動することがり、不安定なものは倒れることがある。
5Upper（5強）	・Many people find it difficult to walk without holding onto something stable. ・Dishes in cupboards and items on bookshelves are more likely to fall. ・Unsecured furniture may topple over. ・Unreinforced concrete-block walls may collapse.	・物につかまらないと歩くことが難しい。 ・棚にある食器類や本で落ちるものが多くなる。 ・固定していない家具が倒れることがある。 ・補強されていないブロック塀が倒れることがある。
6Lower（6弱）	・Many unsecured furniture moves and may topple over. ・Doors may become wedged shut. ・Wall tiles and windows may sustain damage and fall. ・In wooden houses with low earthquake resistance, tiles may fall and buildings may lean or collapse.	・立っていることが困難になる。 ・固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。 ・壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。 ・耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。
6Upper（6強）	・It is impossible to move without crawling. People may be thrown through the air. ・Most unsecured furniture moves, and is more likely to topple over. ・Wooden houses with low earthquake resistance are more ・likely to lean or collapse. ・Large cracks may form, and large landslides and massif collapses may be seen.	・はわないと動くことができない。飛ばされることもある。 ・固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。 ・耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが多くなる。 ・大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山林の崩壊が発生することがある。
7	・Wooden houses with low earthquake resistance are even more likely to lean or collapse. ・Wooden houses with high earthquake resistance may lean in some cases. ・Reinforced-concrete buildings with low earthquake resistance are more likely to collapse.	・耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに多くなる。 ・耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くものがある。 ・耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが多くなる。

南海トラフ地震の基礎知識





●日本列島が位置する大陸プレートの下に、海洋 プレート（フィリピン海プレート）が 南側から年間数cm（3～5cm程度）沈み込んでいる場所を「南海トラフ」といいます。

●ゆっくりなスピードですが、2つのプレートの境界にはひずみが生まれてきます。そのひずみが限界になると、引き込まれていた 大陸プレートが急に元に戻ろうとして、はね上がります。そのはね上がりによって起きる地震を「南海トラフ地震」と呼びます。

●この地震が発生すると、伊勢志摩地域は大きく揺れます。

●そして、海底の岩盤の動きによって海面が大きく持ちあがり、津波が発生します。

【南海トラフ地震（地震規模:M8～M9クラス）】

今後10年以内の発生確率	20%程度
今後30年以内の発生確率	70%程度
今後50年以内の発生確率	90%程度

地震調査委員会による長期評価（2015年1月1日現在）

●「南海トラフ地震」は、近い将来に必ず発生します。

防災対策の基礎知識（必要性）・施設の責務

●「お客様をもてなすにあたり、防災対策も必要であることは言うまでもありません。」
～『観光客の安全・安心の確保は最高のもてなし』～
高橋光幸 富山国際大学現代社会学部 教授（観光専攻：観光資源論、観光経営論等担当）

～東日本大震災の事例等から～
●情報収集を怠ったり、避難誘導を行わなかった場合、損害賠償責任や業務上過失致死罪に問われる可能性があります。

震災発生前の平時から
① 避難マニュアルの作成
② 避難マップに基づいた避難訓練等の実施
③ 避難施設等（避難階段や防火戸）の維持管理
を行い、災害時にはこれらの備えに基づき、適切な避難誘導を行うことが必要です。

外国人旅行者に関する基礎知識

（１）地震そのものを理解できない人がいる

全く地震を経験したことのない国や大きな地震が発生したことがない国から来た外国人旅行者は、どうして地面や建物が揺れたり、家具が転倒してきたりするのか理解できず、気が動転してパニック状態になることがあります。
⇒何が発生したのかを説明する必要があります。

（２）地震の揺れで感じた疑問をそのままぶつけてくる人がいる

日本人は揺れの大きさで、ある程度の被害の大きさを予測できますが、外国人旅行者は過剰に反応する傾向があり、ロビーに集まってきて、『建物は大丈夫か』『何がどうなっているのか』といった質問が殺到することがあります。
⇒施設や建物が安全であることを強調する必要があります。

（３）地震や余震の揺れによる恐怖でパニックを起こす人がいる

大きな地震の後で断続的に余震が発生した場合などは、恐怖で精神的に追い詰められてしまうことがあります。
⇒①『今、何が起こっているか』をわかってもらえるよう説明する必要があります。
②大使館、旅行会社、関係機関等と連絡をとり、状況の説明をお願いする必要があります。

（４）地震後の停電や断水を理解できない人がいる

旅館やホテル側の過失と勘違いし、早く修復するよう要望や要求をする外国人旅行者が出てくる可能性があります。
⇒復旧の見通しや水や照明の準備、食料の状況などを説明する必要があります。

（５）エレベーターを使おうとする人がいる

地震の時に、停電で閉じ込められる恐れがあることは日本人には知られていますが、外国人旅行者はそうではないため、エレベーターを使って逃げようとすることがあります。
⇒地震発生時には、エレベーターの使用禁止を徹底する必要があります。

（６）自分だけでは避難することができない

建物内にとどまることが危険な場合は、屋外への避難誘導や避難場所へ避難を指示しますが、外国人旅行者は地域に詳しくないので、自分だけでは避難場所へ行くことができません。
⇒従業員による避難誘導や避難場所へ直接案内する必要があります。

（７）最新の正しい情報を入手できない

地震後は、日本国内の知人や母国の家族に連絡をとりたいという相談が殺到することがあります。
⇒電話やインターネット等が使えなくなった場合に『連絡できません』と言うのは簡単ですが、納得しない可能性があります。このような場合、提供できる情報やその情報源を伝える必要があります。

（８）外国人旅行者の関係者から安否や滞留場所の問い合わせが殺到する

地震が発生した場合、家族や同行者と離ればなれになっていた場合は、旅館やホテルにその方の安否確認を求めてきます。
⇒施設に滞在している外国人旅行者が外出する際には、その行き先を聞いておくのが一番ですが、個人旅行者の場合は行き先の把握に工夫が必要です。また、安否確認の担当者を指名しておき、各観光地や旅行会社の担当者等と連絡をとる訓練も必要です。

（９）ほとんどの外国人旅行者は被災している場所からの移動を希望する

地震等を怖がって『安全な地域へ移動したい』『すぐに帰国したいがどうすればよいのか』という情報を求めてくることがあります。
⇒①まずは、恐怖心を取り除き、公共交通機関が停止しているような場合は、むやみに移動しないよう伝える必要があります。
②同時に、飛行機・鉄道その他の交通機関の最新運行状況の入手、また、大使館、旅行会社、関連団体とどう連携するかを準備する必要があります。

地震・津波避難対策の心得

施設名 ＿＿＿＿＿＿＿＿

氏　名 ＿＿＿＿＿＿＿＿

「お客様をもてなすにあたり、防災対策も必要であることは言うまでもありません。」

～『観光客の安全・安心の確保は最高のもてなし』～

●情報収集を怠ったり、避難誘導を行わなかったりした場合、損害賠償責任や業務上過失致死罪に問われる可能性あり
⇒ 適切な避難誘導が必要

●想定される震度及び浸水深・到達時間等

（※マニュアルを確認し、自分で記入）

想定される震度（理論上最大クラス）	
液状化危険度	
想定される浸水深（理論上最大クラス）	
想定される到達時間（浸水深30cm）	
避難場所（避難場所までの距離）	

浸水深の目安
- 10.0m　3階建ての建物が水没
- 5.0m　2階建ての建物が水没
- 2.0m　木造家屋のほとんどが全滅
- 1.0m　津波にまきこまれた時ほとんどの人が亡くなる
- 0.3m　避難行動がとれなくなる

●震度と揺れ等の状況（概要）

- 震度4　電灯などのつり下げ物は大きく揺れる
- 震度5弱　固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある
- 震度5強　補強されていないブロック塀が倒れることがある
- 震度6弱　耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。
- 震度6強　耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが多くなる
- 震度7　耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが多くなる

地震・津波避難対策の心得

施設名 ＿＿＿＿＿＿＿＿

氏　名 ＿＿＿＿＿＿＿＿

「お客様をもてなすにあたり、防災対策も必要であることは言うまでもありません。」

～『観光客の安全・安心の確保は最高のもてなし』～

●情報収集を怠ったり、避難誘導を行わなかったりした場合、損害賠償責任や業務上過失致死罪に問われる可能性あり
⇒ 適切な避難誘導が必要

●想定される震度及び浸水深・到達時間等

（※マニュアルを確認し、自分で記入）

想定される震度（理論上最大クラス）	
液状化危険度	
想定される浸水深（理論上最大クラス）	
想定される到達時間（浸水深30cm）	
避難場所（避難場所までの距離）	

浸水深の目安
- 10.0m　3階建ての建物が水没
- 5.0m　2階建ての建物が水没
- 2.0m　木造家屋のほとんどが全滅
- 1.0m　津波にまきこまれた時ほとんどの人が亡くなる
- 0.3m　避難行動がとれなくなる

●震度と揺れ等の状況（概要）

- 震度4　電灯などのつり下げ物は大きく揺れる
- 震度5弱　固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある
- 震度5強　補強されていないブロック塀が倒れることがある
- 震度6弱　耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。
- 震度6強　耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが多くなる
- 震度7　耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが多くなる

地震・津波避難対策の心得

施設名 ＿＿＿＿＿＿＿＿

氏　名 ＿＿＿＿＿＿＿＿

「お客様をもてなすにあたり、防災対策も必要であることは言うまでもありません。」

～『観光客の安全・安心の確保は最高のもてなし』～

●情報収集を怠ったり、避難誘導を行わなかったりした場合、損害賠償責任や業務上過失致死罪に問われる可能性あり
⇒ 適切な避難誘導が必要

●想定される震度及び浸水深・到達時間等

（※マニュアルを確認し、自分で記入）

想定される震度（理論上最大クラス）	
液状化危険度	
想定される浸水深（理論上最大クラス）	
想定される到達時間（浸水深30cm）	
避難場所（避難場所までの距離）	

浸水深の目安
- 10.0m　3階建ての建物が水没
- 5.0m　2階建ての建物が水没
- 2.0m　木造家屋のほとんどが全滅
- 1.0m　津波にまきこまれた時ほとんどの人が亡くなる
- 0.3m　避難行動がとれなくなる

●震度と揺れ等の状況（概要）

- 震度4　電灯などのつり下げ物は大きく揺れる
- 震度5弱　固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある
- 震度5強　補強されていないブロック塀が倒れることがある
- 震度6弱　耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。
- 震度6強　耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが多くなる
- 震度7　耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが多くなる

●防災体制等	●地震・津波発生時の行動マニュアル（概要）	●外国人旅行者に関する基礎知識
（※マニュアルを確認し、自分で記入） ◆私は、 昼間 ＿＿＿＿＿＿＿＿ 係 夜間 ＿＿＿＿＿＿＿＿ です。 ◆全体統括係は、 責任者＿＿＿＿＿＿＿＿ さん 担当者＿＿＿＿＿＿＿＿ です。 ◆地震・津波対策マニュアルは、 ＿＿＿＿＿＿＿＿ に保管しています。	地震発生時 ・身の安全の確保を呼びかけ ・冷静な行動を呼びかけ ※大きな地震、あるいは、比較的揺れが小さくても1分以上の長い時間揺れた場合は、津波来襲の危険性ありと判断して、ただちに避難体制を整えます。 最初の揺れが収まった時 ・状況説明 ・避難誘導 ・安否確認 ※高齢者、障がい者、妊婦などの方々には、避難誘導係や救護係が状況に応じた対応を行います。 （介添や筆記など） ※外国人には、「外国人旅行者用コミュニケーションカード」等を活用しながら対応します。	（1）地震そのものを理解できない人がいる （2）地震の揺れで感じた疑問をそのままぶつけてくる人がいる （3）地震や余震揺れによる恐怖でパニックを起こす人がいる （4）地震後の停電や断水を理解できない人がいる （5）エレベーターを使おうとする人がいる （6）自分だけでは避難できない （7）最新の正しい情報を入手できない （8）外国人旅行者の関係者から安否や滞留場所の問い合わせが殺到する （9）ほとんどの外国人旅行者は、被災している場所からの移動を希望する

●防災体制等	●地震・津波発生時の行動マニュアル（概要）	●外国人旅行者に関する基礎知識
（※マニュアルを確認し、自分で記入） ◆私は、 昼間 ＿＿＿＿＿＿＿＿ 係 夜間 ＿＿＿＿＿＿＿＿ です。 ◆全体統括係は、 責任者＿＿＿＿＿＿＿＿ さん 担当者＿＿＿＿＿＿＿＿ です。 ◆地震・津波対策マニュアルは、 ＿＿＿＿＿＿＿＿ に保管しています。	地震発生時 ・身の安全の確保を呼びかけ ・冷静な行動を呼びかけ ※大きな地震、あるいは、比較的揺れが小さくても1分以上の長い時間揺れた場合は、津波来襲の危険性ありと判断して、ただちに避難体制を整えます。 最初の揺れが収まった時 ・状況説明 ・避難誘導 ・安否確認 ※高齢者、障がい者、妊婦などの方々には、避難誘導係や救護係が状況に応じた対応を行います。 （介添や筆記など） ※外国人には、「外国人旅行者用コミュニケーションカード」等を活用しながら対応します。	（1）地震そのものを理解できない人がいる （2）地震の揺れで感じた疑問をそのままぶつけてくる人がいる （3）地震や余震揺れによる恐怖でパニックを起こす人がいる （4）地震後の停電や断水を理解できない人がいる （5）エレベーターを使おうとする人がいる （6）自分だけでは避難できない （7）最新の正しい情報を入手できない （8）外国人旅行者の関係者から安否や滞留場所の問い合わせが殺到する （9）ほとんどの外国人旅行者は、被災している場所からの移動を希望する

●防災体制等	●地震・津波発生時の行動マニュアル（概要）	●外国人旅行者に関する基礎知識
（※マニュアルを確認し、自分で記入） ◆私は、 昼間 ＿＿＿＿＿＿＿＿ 係 夜間 ＿＿＿＿＿＿＿＿ です。 ◆全体統括係は、 責任者＿＿＿＿＿＿＿＿ さん 担当者＿＿＿＿＿＿＿＿ です。 ◆地震・津波対策マニュアルは、 ＿＿＿＿＿＿＿＿ に保管しています。	地震発生時 ・身の安全の確保を呼びかけ ・冷静な行動を呼びかけ ※大きな地震、あるいは、比較的揺れが小さくても1分以上の長い時間揺れた場合は、津波来襲の危険性ありと判断して、ただちに避難体制を整えます。 最初の揺れが収まった時 ・状況説明 ・避難誘導 ・安否確認 ※高齢者、障がい者、妊婦などの方々には、避難誘導係や救護係が状況に応じた対応を行います。 （介添や筆記など） ※外国人には、「外国人旅行者用コミュニケーションカード」等を活用しながら対応します。	（1）地震そのものを理解できない人がいる （2）地震の揺れで感じた疑問をそのままぶつけてくる人がいる （3）地震や余震揺れによる恐怖でパニックを起こす人がいる （4）地震後の停電や断水を理解できない人がいる （5）エレベーターを使おうとする人がいる （6）自分だけでは避難できない （7）最新の正しい情報を入手できない （8）外国人旅行者の関係者から安否や滞留場所の問い合わせが殺到する （9）ほとんどの外国人旅行者は、被災している場所からの移動を希望する

	仕切カード	ラベル	綴じる資料	シート名	備考
①		マニュアル	マニュアル ・様式１ ・様式２の１ ・様式２の２ ・様式３ ・様式４ ・様式５ ・様式６ ・様式７ ・様式８ ・様式９	 様式1 様式2の1 様式2の2 様式3 様式4 様式5 様式6 様式7 様式8 様式9	
②		コミュニケーションカード	コミュニケーションカード ・コミュニケーションカード（１） ・コミュニケーションカード（２） ・コミュニケーションカード（３）	 ｶｰﾄﾞ① ｶｰﾄﾞ② ｶｰﾄﾞ③	
③		コミュニケーションカード 別冊リスト	コミュニケーションカード別冊リスト	ｶｰﾄﾞﾘｽﾄ	下記シートのカードを別冊として綴じる ・ｶｰﾄﾞ②-2 ・ｶｰﾄﾞ③-2 ・ｶｰﾄﾞ⑤-1 ・ｶｰﾄﾞ⑤-2 ・ｶｰﾄﾞ⑤-3 ・ｶｰﾄﾞ⑤-4
④		駐日外国公館等リスト 震度と揺れの状況（概要）	駐日外国公館等リスト 震度と揺れの状況（概要）	公館ﾘｽﾄ 震度	
⑤		チェックイン時配付資料	津波避難マップ Safety Tips　チラシ Safety Tips　説明資料 （かざすCity　チラシ） （鳥羽市避難誘導Webシステムチラシ）		
⑥		教育・訓練資料	教育・訓練資料	教育訓練	

マニュアル	コミュニケーションカード	コミュニケーション カード別冊リスト	駐日外国公館等リスト震度と揺れの状況（概要）	チェックイン時配付資料	教育・訓練資料
マニュアル	コミュニケーションカード	コミュニケーション カード別冊リスト	駐日外国公館等リスト震度と揺れの状況（概要）	チェックイン時配付資料	教育・訓練資料
マニュアル	コミュニケーションカード	コミュニケーション カード別冊リスト	駐日外国公館等リスト震度と揺れの状況（概要）	チェックイン時配付資料	教育・訓練資料
マニュアル	コミュニケーションカード	コミュニケーション カード別冊リスト	駐日外国公館等リスト震度と揺れの状況（概要）	チェックイン時配付資料	教育・訓練資料